

展示資料概要

1. 資料名

松山市指定有形文化財（考古資料） 平形銅剣 二口

2. 資料の内容と意義

平形銅剣は、身が薄く刃がない弥生時代の武器形の祭器で、その分布は瀬戸内海沿岸に限られます。青銅製の祭器は、近畿圏では銅鐸、北部九州を中心とする西日本では銅矛・銅戈、瀬戸内海沿岸部では平形銅剣、と出土する地域に偏りがあります。平形銅剣は、出土数の6割が松山平野北部の城北・道後地区と丸亀平野で見つかり、松山平野が平形銅剣祭祀の中心地であったことがうかがえ、平形銅剣が松山市の弥生時代を象徴する資料といえることができます。

今回特別展示する平形銅剣2口は、道後樋又から一括出土したと伝わる8口の一部で、弥生時代の松山市を代表する青銅器で完形品であることから、昭和57年4月13日付で松山市の有形文化財（考古資料）に指定されたものです。

松山市考古館ではこれまで、平形銅剣として発掘調査で出土した破片と東京国立博物館所蔵品のレプリカを展示してきました。今回完形品を新たに収蔵、展示することは、出土地であり平形銅剣祭祀の中心地である松山市としても大変意義深く、来館者に松山の弥生時代を感じていただけるものと考えます。

また、今後は、同地で出土した愛媛大学所蔵品及び民間所蔵品や、東京国立博物館所蔵の道後一万出土の10口と比較研究することで松山の青銅器祭祀のあり方を明らかにできるものと期待されます。

3. 購入の経緯

令和元年12月、東京都内の法人から550万円（税込）で購入いたしました。